

手打地区だより

平成 22 年 12 月 「手打地区コミュニティ協議会」発行 No.18



トシドンの来訪について

「甕島のトシドン」は、昭和 52 年に国の重要無形民俗文化財として指定を受け、国連教育科学文化機関(ユネスコ)にも登録されました。トシドンは、大晦日に訪れる来訪神であり、子供達の日頃の素行を具体的に挙げて、戒めたり、たたえたり、諭したりして子どもたちの自覚を促し、健やかな成長を願う郷中教育の一つでもあり、祖先の人々がその生活の知恵として生み出し、受け継ぎ、伝承してきた素晴らしい伝統行事です。手打地区には3つの(港・麓・本町)保存会があります。大晦日にそれぞれの保存会でトシドン行事を行います。トシドンについての詳しいことは、各保存会にお尋ねください。

門松の由来について

知覧町武家屋敷の門松

知覧町武家屋敷の門松は円錐状に盛ったシラスに笹のついたままの竹や松・ゆずり葉をたてて、シラスには薪を3本円錐状に置きます。シラスを盛った門松は、神様が降臨されたとき宿られる依代(よりしろ)薪を置くのは「かまどの火を絶やすことなく、三度・三度食べられますように」「この土地に根付いていられますように」「薪の鋭い割れが邪気をはらう」などの意味があるといわれています。



知覧町武家屋敷の門松

手打の門松

手打の門松は、円錐状に盛った白砂に支え木で松・竹を立てて、白砂には真っ直ぐに割った薪(マテの木)3本を組み合わせ末広がりにもったものであり、知覧町武家屋敷のものと同じ形式・意味もほとんど同じではないかと思われます。

「かまどの火を絶やすことなく、三度・三度食べられますように」

「薪の鋭い割れが邪気をはらう」

「白砂は新年を真っ白な気持ちで迎える」等ではと思われます。

※門松は古くから新しい年を迎えるにあたって、玄関先を清め、悪い鬼又は邪気などが家の中に入らぬように祈念して立てたもので、門松で新年の神様をお招きする風習は全国各地にあるそうです。「松は千歳を契り、竹は万代を契る」という諺があり、門松に松と竹が使われるのは神の宿る場所(依代「よりしろ」)が永遠に続くことを願っての組み合わせであると考えられています。門松を29日に立てるのは「九松」といって「苦待つ」に通じるということで嫌われるようです。28日まで立てるのが一般的のようです。門松は平安時代ごろから、めでたい木とされた松と、そのあとに竹が添えられて、めでたいものになり、竹と松が飾られるようになったとあります。

手打の門松は、鎌倉時代に甕島地頭として鎌倉から来島した小川氏とその家臣団によって伝えられたものと考えられます。そのためか質素で力強い鎌倉文化を思わせる様式となっています。先人たちが諸々の思いを込めて育み伝承してきた由緒ある貴重な伝統文化であります。これからも先人たちの遺産を大切に伝承しなければなりません皆様のご理解・ご協力お願いいたします。



手打の門松(下甕郷土館)



手作りのイルミネーション



“手打麓地区の原崎輝宏さん宅の手作りのイルミネーションが地区の夜を彩っています。”

原崎さんは東京都庁を退職後帰省されて、現在は、麓地区の自治会長・同地区のトシドン保存会長など活発に活動されています。その傍ら地域に活性化をと自宅をイルミネーションで飾り、地域の皆さんにも喜ばれています。每晚9時頃まで点灯されます。過疎化・高齢化で沈滞しがちな地域ではありますが、多数の電球で飾られたイルミネーションが心を癒してくれます。ぜひご覧ください。

4

これからの行事

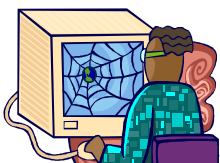
12月31日：トシドン行事・各保存会（港・麓・本町）で実施します。詳しいことは、保存会にお尋ねください。

1月1日：新田神社新年祭 10時～10時30分 手打地区の守神です。多くの皆さんの参拝をお待ちしています。

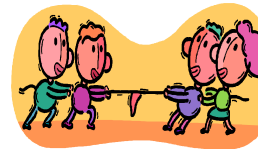
：年始会 午前11時から手打地区コミュニティセンターで行います。

1月2日：本町船主会新年祝賀会・漁船パレード等があります。

1月16日：コミュニティ地区別綱引き大会（「サンアリーナせんだい」で行われます。手打地区からは、男女2チームが出場します。）



ホームページのお知らせ



手打地区コミュニティ協議会では、ホームページを開設し、地域の情報を逐次発信しています。手打湾の状況もライブカメラを設置しており、世界に向けて生中継しています。インターネットを利用される方は、ぜひご覧いただきご意見等お聞かせください。

手打地区コミュニティ協議会で検索してください。

ご意見ご要望等お聞かせください。
手打地区コミュニティ協議会へのお問い合わせは

☎09969-7-0928

